

平成 30 年度 第 2 回 蕨市立図書館協議会 会議録

開催日時 平成 31 年 3 月 23 日(土) 午前 10 時から午後 0 時まで

開催場所 蕨市立図書館 3 階 会議室

議題 (1) 平成 31 年度事業計画及び予算案について
(2) 第二次蕨市子ども読書活動推進計画(案)について
(3) 委員からの要望事項の回答について
(4) その他

公開非公開の別 公開(傍聴人 1 名)

出席者氏名 <出席委員>

町田敏子委員、田中京子委員、岡本和子委員、園川泰子委員
堀井良枝委員、近江睦代委員、荻原由美子委員、永井雅幸委員

<事務局：図書館職員>

小栗館長、菅谷管理係長、小河原主事

会議経過

管理係長から開会し、館長あいさつ、会長あいさつ、資料確認の後、議題に入る。

(1) 平成 31 年度事業計画及び予算案について

管理係長が議題 1 を説明し、質疑応答に入る。

委員：月 1 回の水曜日の乳幼児親子向けおはなし会について、てんとうむしの会に協力してもらうことになるが、これはてんとうむしの会と決めた時間帯か。

事務局：時間帯は事務局で決めた。小さいお子さん、特に乳児についてはお昼に近い時間がよろしいかと思われる。

委員：私は子育て広場をやっており、そうすると 0 歳児から 1 歳児は 11 時くらいがちょうど眠くなる時間になる。お母さんたちが抱っこして赤ちゃんが泣き始めてから話をする状況がだいたい 11 時くらいとなっている。0 歳児や 1 歳児を相手にするなら、逆にお昼を過ぎたくらいのほうがいいのではないか。お昼寝して、お昼ご飯を食べた後のほうがよい。11 時くらいは他の公民館の子育て学級や、子育て広場等をやっているところがあり、そこと時間帯が被る。そこで被ると結局、来れるお母さんが限られてしまう。絵本はやはり、いろんな人に見て聞いて欲しいものだと考えている。他の事業と重なるところは時間帯を下げるといいのではないかと思う。お母さんたちは常に行きたいところを探しており、子育て広場が終わってご飯を食べに行くときに、今日はおはなし会があるから行ってみたいということが連動して他のお母さんたちとも動けるとすごくいいのかなと思う。もう一度時間帯について検討していただけたら嬉しい。

事務局：現状は、本決まりではなく、てんとうむしのご都合もあることから、今後時間帯を調整していきたい。

委員：乳幼児親子向けはすごく幅が広いと思う。本当に乳を飲む子なのか、今まで図書館が計画していた子どものためのおはなし会に来る子どもの年齢を少し下げたくらいの感覚なのか、つまり、2、3 歳児前後を対象にしているのか。それとも 0 歳児までを入れるのかというあたりも明確にし、何歳前後ということも考えて検討してもらいたい。

委員：ちなみに場所はどこか。

事務局：会議室かおはなし会室で考えている。

(2) 第二次藤市子ども読書活動推進計画（案）について

管理係長が議題 2 を説明し、質疑応答に入る。

委員：読み聞かせのグループに参加しており、あいバルという与野にできた施設だが、月に 2 回紙芝居を行うために行っている。実演する時間帯は 10 時 30 分から 11 時 15 分くらいまでを予定しているが、その時集まった人数によっては、30 分くらいで終わり、長くて 45 分くらいで終わる。集まった子どもの様子によって、時間帯が変わる。計画しているのは、時間のスタートは書いてあったが、何分くらいを予定しているのかというあたりも 1 時間は無理だと思うが、学校の授業は 45 分のため、30 分くらいがいいのかなと思う。親子で集まるときに 3 歳くらいがいると本当に紙芝居の中に入って質問したり、楽しんだりすることがわかる。そうするとお母さんも一緒になってそういうことを経験できるため、親子にとってすごくいい時間になると感じている。さっきの発言の中で場所が図書館でというよりも児童センター等いつも親子で遊んでいる場所に図書館で決めた事業としてやってあげるほうが自然なのかもしれない。赤ちゃんを連れて図書館になかなか行く機会がないかもしれないかなと思う。場所をもう少し検討してもらえるといいのかなと思う。

委員：学校等におけるということで、いくつか質問をしたい。推奨図書リストの団体貸出についてこれは来年度から各学校にリスト化されたものを貸してもらえるのか。

事務局：図書館でいったん全部揃えて、月に 1 回それぞれの学校に用意できるかと言えば約束はできない。何部か買って置き、それを例えば 1 学期単位で団体貸出をしていけたらと考えている。そのため、全部の学校の分を図書館で全部冊数を揃えるというわけではない。

委員：そうすると複数セットを期間に限ってどの学校も 1 年間の間には見ることができるという認識でよろしいか。

事務局：1 年間の間で各学校に持ち回りで見ることができるよう計画している。

委員：新規の具体的な取組の 4 の取組の主体は誰になるのか難しいところではあるが、主語である支援員がとはっきり書かれているところがあり、これは支援員が行うのは読書活動の授業の支援なのか。それと学校図書館で需要が多いのは読書と、もう一つの柱として調べ学習という学習センターとしての役割としての図書室利用がある。授業としての図書室利用ではそれが割と多い。この計画そのものは読書活動というところにあるが、その授業の支援は具体的にどういうことをイメージしているのか。そして、支援員にやってもらうようにだれがどういう風に働きかけるのかということも合わせて回答願いたい。

事務局：最初に説明するべきであったが、第 3 章 推進計画の具体的施策の新旧対照表に連絡調整会議があり各課で実施している。今の話は学校教育課になるが、関係する担当で調整しており、こちらについては広義になるが授業等も学校教育課であがってきた取組みが主な内容となるため、具体的な意図している所はわからない。主語としては、小中学校における取組については学校が主語になっている。学校教育課が統括してそれぞれの学校で取り組んでいくという意味合いでよろしいかと考えている。

委員：夏休み推薦図書の購入や選書の機会については既に行っている。問題は、連絡調整会議に教

育総務課が入っていない。学校の図書館整備関係の予算は教育総務課が握っている。ようやく学校教育課が選書を始め、関わってきているが、2番目のところの学校図書館の環境を整備するということで支援員を入れるというのは学校教育課から来ているが、本を買うとか、廃棄するとかは教育総務課になる。今の学校図書館の問題点の1つは蔵書率100%を達成するために本を捨てられない。1,000冊以上の本を廃棄する準備はしているが、捨ててはいけない年が毎年ようになっており、図書室の本棚を捨てるべき本で埋められてしまっていることで各学校が悲鳴をあげている。そのため連絡調整会議のなかにはやはり教育総務課が入らないと、買うのも捨てるのもすべて教育総務課と学校のやりとりになっていることから、ぜひ連絡調整会議に教育総務課に加わってもらいたいと思うし、教育総務課の情報と学校教育課の情報とで、うまく連絡が取れていないと思える。市役所内の関係課の連携を調整会議の中で進めてほしい。

事務局：これからというものもあるが、意見として検討していきたい。

委員：これは31年の2月に実施したものか。

事務局：2月に会議を実施した。

委員：といういま話し合っている内容もできたらすぐにでも発信してもらいたい。

事務局：やることもあり、なかなか実施できないが、計画というのは6月から新たなものやってくため、こういった課題や問題があるところで、会議の中で話し合っていければと考えている。図書館としての意見は、判断するところは担当課になるが、なかなかこういった場でこうしろと言われてもできない。これから子ども読書推進計画を進めていくにあたって調整するところは調整していきたい。

委員：今の話に関係するが、図書館の小学校等の取り組みということになっていくと、話に出ていた支援員に給料を出すのは教育総務課の管轄になっている。小さい蕨市で、小学校はたったの7校なのに、それぞれ市役所の組織は縦割りになっており、図書館とか、本読むとか、子どもたちがいっぱい本を読もうねといった子どもをみんなで支えようという取り組み1つも、こういう風に1つ1つ違ったものになる。本当に学校教育課と教育総務課は、隣同士の課なのに図書館の取り組みについて話し合われていないというところにいつもジレンマを感じている。これが例えば図書館から言わないとしたら市長に言えばいいのか。市長がこの連絡調整会議に足りないものを入れるということもできるのか。

事務局：意見を言えばすべてできるようになるわけではない。できる範囲の中で情報共有して調整することができればと考えている。そのため、誰に言わせてやらせるというものではなく、担当課があることから、それぞれ調整してできるところは対応したい。

委員：承知した。ここで話し合った結果を反映させていくことができるようにしてもらいたい。

委員：学校図書館等のことで、今の話と関係するが、この計画そのものは蕨市の教育委員会で主導しており、全体的にどこの組織が関わっており、どういう連携をしているのか見える化して、そして蕨市立図書館としては何をしなければならぬのかということを確認しておいたほうがよいのではないかと。1の家庭・地域における子どもの読書活動の推進や、2の学校等における子どもの読書活動の推進は図書館がやっていることではなく、他の部署が主導で行っている。それに対して3の図書館における子どもの読書活動の推進は図書館の連携をするところになっ

ており、全体的にわかりにくい。もう1回話を戻すと、蕨市の子どもたちに読書をしてもらうという目標があったらそれに対して、どこがトップで意見をまとめてとりまとめていき、それにぶら下がっている組織をとって、それに対して会議を行って、図書館はこうやるからよろしいかといったことを話すべき。1と2については担当されている人もおり、読書にかかわっている人がいるため、意見としてはいいと思うが、少し図書館協議会の話とは違うのかなと感じる。

事務局：この計画について他市の状況を見ると、担当課が集まって、それぞれ作っているものがあったりとか、図書館だけで作っていたり、様々なものがある。それで、図書館が主として動くということであれば、確かに家庭や学校を管理することになるが、やはり、主のところは図書館が動いていくところをメインにやっていくのがいいのではないか。国の取り組みの中で改正のポイントとあるが、国の方針はもともと地域や家庭、学校に基づいて進めてきている。それをベースにして計画に反映させている。

委員：まとめると、要望としては、子どもの読書活動推進計画に対してどういう組織が行っていて、先ほど、予算を持っているのは教育総務課であるという話だったが、どこがどう主導で責任をもってやって、どこどこが連携を取らなければならないのかを明確にして、市民に発信していき、関わっている人たちに説明をするといいと思う。

事務局：意見として参考にしていきたい。

委員：先ほど16ページに読書活動推進の目標があるが、指標として学校図書館の年間貸出冊数というのは外に貸し出しをした回数という意味でいいか。現状値29年度で13.28冊となっており、平成35年度の目標値は、16冊となっているが、数値は適切なのか。蕨市のコンパクトビジョンの中に、20冊以上と出されており、それを下回ってしまうのはどうなのか。

事務局：今ここで図書館として、答えるのは難しい。そちらの数値は学校教育課で出している数値のため、このあたりのところを調整させてもらいたい。

委員：今話していた連携が必要だと思う。どこが主導なのかというところがわからなくて、何か言うと学校教育課のほうだということになってしまう。子どもたちがこんなことを聞くと傷つく。そのため、前の委員が話したように明確にすることが前提なのかなと考える。後、貸出者数というところもあるが、ここでも学校教育課の話と言うかもしれないが、蕨市の場合コンピュータ化しておらず、集計の仕方が各学校バラバラとなっている。後、条件も統一されておらず、各学校1人当たりに借りられる冊数は1冊だったり、3冊だったりする。長期休みの貸し出しがない場合もある。そういう風に条件としてバラツキがあり、一概に数値化することは目安にはなるものの、とても乱暴だと思う。

委員：学校図書館と連携する会議はないのか。

委員：各学校に図書主任、司書教諭がおり、主任会というのが年に2回くらいしかない。学校教育課が招集するが、だいたい課題図書コンクールの作品の設定等で、図書館の運営だとか、推奨図書を作るとか、そういう話にはなっていないのが現状。本来計画があつて一緒にやる必要があるため、学校教育課を招集して、そこに支援員が入るとか、図書館職員にも会議に出席することによって、より熱気が広がるのかなと思う。

委員：実際今、図書館司書の資格がある先生は担任もしているし、学校の仕事が忙しく、なかなか支援員と一緒に話をする機会がない。具体的には図書委員会の担当の先生であれば、支援員と話をする時間がある。同じ土俵にたって話す時間は大切になる。学校図書館には、各学校の運営の仕方があると思う。先ほど、前の委員が話していたように、どの授業の支援をするという話のなかでも支援員がいたり、ボランティアがいたりするところで実際に調べ学習にきた子どもたちに案内したり、この本はこうやって調べるといったお手伝いをしている人もたくさんいる。それ以外で、同じ読み聞かせの団体も休み時間に参加するグループもあれば、私たち読みっこは塚越小学校に国語の時間として、低学年の1年生、2年生に1時間使って、おはなし会を続けているが、そういった形で授業の中でも、ボランティアが参加している。学校の状態や色々な状況によって、色々なところからアクセスをして、少しでも子どもが読書ができるように推進しているような取り組みをしているのかなと思う。数値よりは例えば何小学校では、どんな取り組みをして、冊数が増えたかや、去年よりもこういった取り組みを行ったということ等が挙げられる。読書ビンゴを始めたところ、300冊ぐらい子どもたちが読んだ本の数字が増えた。日ごろ読まないジャンルも増え、ビンゴになったらしおりをあげる取組を行ったところ、読書室に来る子どもたちが増え、実際に本を買う子どもも増えた。結果として、大幅に本を読む子の数字が上がった。コンピュータがないと、その数字は、本当はもっとあるものの、手作業で数えるのが大変な作業となっている。こうした取組を紹介することは、データや数値化するだけではなく、実際に目に見える活動の報告にもなるのかなと思う。

委員：図書館の事業計画ということだが、イベントのみになっている。イベントだけではなく、実際、図書館としてどういうことをやっていくかということについて3に書かれている子ども読書活動支援の取組ということをやっていくというのであれば、3のところの支援する計画を①から⑥の記載しているところを図書館として、来年度どうやっていくのかということが事業計画になるのかなと思っていて、それに対して新規の具体的な取り組みとして⑥としか書いていないが、①から⑥まで来年度どうやっていくのか

事務局：議題2資料にないものについては継続し、取り組むことになっている。説明が足らず申し訳ない。

委員：議題1の事業計画では継続して行っているものがほとんど。継続して行うことについても例えば①資料活用に関する取り組みや②児童書コーナーの充実は具体的に何をするのか。こういったことを事業計画に盛り込むべきではないのか。また、図書館における子ども読書活動の推進は何かを事業計画の中で掲載して具体的にしていきたい。

事務局：どのあたりを説明すればよいか。

委員：継続していることの中で①から⑥まであるかと思うが、現状これをやっていて、こんなところが改善できると考えているというところもあるだろう。現状を洗い出し、簡単に補足していただきたい。例えば、①の資料活用に関する取組については、学校への貸出等があると思うが、学校への貸出頻度が低いとしたときに、今後は貸出の頻度を増やせるような取り組みを考えているとか、ざっくりとわかる範囲で教えていただきたい。

事務局：読書を推進する取組を順に説明していくと、①の資料活用に関する取組については団体貸出等の貸出者数を増やそうと考えている。今、図書館では小学校では学期ごとに全クラス、学級文庫のような形で、児童の人数分の貸出を行っている。これについては学校と連携して資料活

用を行っている。②の児童書コーナーの充実については、トイレの前のところに新着コーナーを設けたり、開架書架のレイアウトを変更したりした。なるべく本の表紙をメインに見せて、背表紙は、あまり見せないようにして本が借りられるように工夫をしている。③のおはなし会・講座の充実については、今後も継続して行っていきたい。④ブックスタート事業については、4か月検診が月2回あるが、赤ちゃんに本をプレゼントしており、今後も継続したい。⑤図書館職員の向上については、蕨市だけではなく、他館の状況にもアンテナを張って、情報をより増やしてあげることができればと考えている。⑥の障害のある子どもたちへの読書支援については、新規のため、割愛する。

次に、学校図書館や、ボランティア等との連携・協力については、①図書館と学校との連携については、先ほどの団体貸出と重なるところがあるが、学校と連携し、横のつながりを強くするということになる。②ボランティアとの連携・支援についてはボランティア養成講座が該当する。要請することも、これをやりたいと言った人に団体にも紹介できているのではないかと考えている。③推薦図書リストの作成については新規のため割愛する。④の相互貸借については、館内にない本については予約をすることによって、県内の図書館から借り受けすることができる。⑤の児童・生徒の施設見学や職場体験等の受け入れについては、ワーキングウィークがあり、各中学校の2年生を毎年呼んでおり、これも継続して行いたい。また、施設見学があり、西小学校と北小学校は遠いため、施設見学は難しいが、3年生を対象にしており、これも継続して行いたい。

最後に、子どもの読書活動の普及と啓発について、①「子ども読書の日」等の取組については、4月20日にイベントを考えている。てんとうむしの会と一緒に子ども読書のイベントを行う。合わせて、児童のみ倍貸しを行う。継続して行う事業については以上になる。

委員：計画の目標に学校図書館の関係者が作った数字だが、図書館では児童書や絵本の貸出の件数を増やす等、図書館独自で目標をあってもよいのではないか。

事務局：配布した資料の16ページを参照のこと。

委員：先ほどの話の中でブックスタートはあるものの、指導計画の中で、月1回、親子向けおはなし会を開催するのは、新規事業としてつながっていくのかと思う。なぜなら、ブックスタート事業の時に、ボランティアとして関わったことがあるが、図書館に行ってくださいで終わってしまう。そうすると、おはなし会に行きたい人でも、赤ちゃんを連れてというのは、やはり赤ちゃん対象のおはなし会がないため、途切れてしまう。今回の新規事業として親子向けのおはなし会は新しい取り組みとしてはよいと思う。

委員：子ども読書の日が4月23日で、新年度がはじまってすぐで、学校がバタバタしている時であり、あつという間に終わっちゃったというのが普通だと思う。各学校の図書委員会の活動も、終わってしまったと感じる時が4月23日にあたる。そのため、今ぐらいから伝えるべきだし、子ども読書の日というよりは、子ども読書週間といった、秋の読書週間といった感じで考えて、1日だけというよりは、4月の後半から5月の前半に向けて、子ども読書週間の考え方を、学校や地域にPRしていくことが啓発活動につながると考える。

事務局：子どもの日は5月5日にあり、その時には倍貸しも行うが、それくらいの広い期間で行う

ことについては今後の検討課題にしたい。

委員：よく色々な小学校で、「家読」活動があり、これは家で、親子で一緒に読書をするのだが、アウトメディアを実施していくことで、一緒に本を読むこと等につながっていくため、すごくいいと思う。

その中で、家読活動も対応していくことができればいいなと考えている。

(3) 委員からの要望事項の回答について

管理係長が議題3を説明し、質疑応答に入る

委員：全体像と目標について、コンパクトシティ蕨の中にほんの少ししか書かれていない。先ほど近隣の図書館の話もしたと思うが、他の図書館はこういう目標でやるビジョンが必ず出ている。にもかかわらず、蕨の場合は、これだけと感じてしまう。西口再開発で、新しい図書館ができると聞いた。方針が決まっていないと、蕨の予算は少ないため、その中で、資料はどういったものを買って、パート職員などの人件費を作っていくということになると、目標がしっかりしていないと、なんとなくある図書館で終わってしまう。そのあたりはしっかりとメリハリをつけていかなければならないと考えている。コンパクトシティ蕨は市長が蕨市はこうするといったことを掲げてやっているものだから、その中で、図書館は、こういうものにしていき、相互に連携してやっていくものだと考えている。今回、協議会委員としての要望という形でまとめたのは、蕨市立図書館にとってふさわしい図書館とはどういうものかを宿題として出した。図書館として見える化したものをしっかり作って、それに基づき、事業はこうあって、貸出の目標は何件あって、資料の選書はこのようにして、資料室はこのようにする等、全体像が見える図書館ではないとダメなのではないかという思いから要望した。

事務局：図書館としても、協議会委員の力になることはなかなか難しい。計画を策定するといった目に見えないところで行っている事業がある。そのため、今のところで整備していかなければならない問題もあったようにあると思う。しかし、急にできるような状況ではない部分もあるため、ちょっとずつにはなってしまうが、そういったものが見えるかできるような形にしていきたい。

委員：どういう図書館をめざすという目標は今までなかったのか。学校では、目標は絶対に第1番にあると思う。

委員：今回はこうした形で示してくれた。来年度はこういう形で予算が決まり、事業計画もあって、それを実施していくことになる。皆さんが関わっていくかどうかはわからないが、来年度はそれに向かって、課題を基に、再来年度以降、こういうビジョンを基に、動いたほうがいいのか。

委員：市民サービスではないというところで、蕨市の図書館協議会の役割というところがよくわかっていなかったところもあるが、今の図書館の人員では目標が立てられないと館長が言っていたが、図書館として予算はいくらあり、どういう風に使っていると、今日の最初の議題の中に、予算の主なものが書いてあって、来年度の予算がいくらなのか確認したいが、資料を見ると1億8,000万を図書館が使っている。その中で、この図書館協議会で予算は2,500万くらいということで承認されてしまうのはおかしい。もし、図書館協議会で承認できないとしても、市民

に対して見える化していくべきだと思う。さいたま市や川口市の図書館の資料を見ると、予算がいくらで、どのようになっているかはホームページ上に掲載されており、これは先ほど、図書館概要の中に予算はいくらでどうなっているかは、ここで承認される必要はないかも知れないが、見える化していくべきことなのかなと思う。

事務局：それに関しては、図書館だけということではできない。全体のバランスというところもあるため、この場ですぐに返事ができない。

委員：返事は特に求めないが、できないのであればなぜできないのか。要望リストの中にすぐに着手できないと多く書かれているが、いつだったらできるのかを明確にしてもらえらるだろうか。すぐに着手できないという回答であれば、ずっとできないことと同じかなと思う。すぐにできないのならば、来年度中には何らかの形で回答するといったことをしてもらいたい。図書館協議会で話したから、次回までにということは言わない。その上で、進捗があり、こういう状況ということをお話してもらえればと思う。それから、説明の中でスルーされてしまったところがあり、評価のところも目標があって、最終的には評価になって相互が連携になっている。資料には、図書館の利用者数の目標しか書かれていないが、目標は学校図書のこと等いろいろあると考えており、色々な側面でやってもらいたい。また、サービスのところにもあるが、要望リストの9は既に終了済と書いてあるが、検討済みと書いてあり、まだ終わっていないのではないかな。

事務局：修正する。

委員：これもいつまでにやるかを明確にもらいたい。30年度の図書館概要は作っているのか。

事務局：次の30年度の概要も次回渡すことになっており、その時には掲載したい。

委員：次回の協議会の中で、30年度の結果というのが出るかと思う。そのときに目標をいれてもらいたい。データだけではなく、図書館が実施しなければならないことも掲載してほしい。また、サービスの向上にかかわるような意見等があれば、図書館協議会の場であげてもらい、協議会の委員からの意見も出せるよう検討してほしい。11についてはとてもいい企画だったが、削除されてしまった。12の選書についてはHPのQ&Aに掲載しましたとあるが、どのようにしたのか。

事務局：リクエストの仕方についての情報をHP上に掲載した。

委員：郷土資料室や参考資料室の関係で、小さい市で、さいたま市や川口市と比べて予算が少ない中で、2階に参考図書や新聞の縮刷版が所狭しとある。事務局が先ほど話したように利用頻度が少ないからといって廃棄するものではないという説明ではあったが、もう少し、視点を変えて、保管するところは他の図書館に任せればよい。目標に合致するところはあると思うが、蕨市の図書館として何をしなければならないのか考えてもらい、スペース等を有効活用してもらいたい。これは新しい図書館でも出てくることだと思うが、利用されているからというだけで、現状のままにするということではなく、柔軟に発想を変えていくべきではないかなと思う。また、パソコンの席を設けることについては、音がするから禁止するということだが、その代わりにインターネットが接続できるパソコンを置くというのは矛盾しているのではないかな。

事務局：読書室と参考資料室は部屋が違う。読書室の中ではなく、参考資料室内にパソコンを置けるように毎年要望をしている。

委員：図書館でパソコンを買わなくても、利用者がパソコンを持ってくればいいのか。買う予算

がないため、パソコンを置くスペースがどこかにあればいい。今の時代、どこでもやっていると思う。

事務局：読書室は厳しいため、もともと設置を予定している参考資料室か、他にあれば検討したい。

委員：おはなし会のスペースだが、2階のスペースが本当にもったいない。おはなし会室は使っていない時でも鍵がかかっていて、使う時だけ鍵を開けるのはもったいない気がする。また、2階の参考資料室も大きな百科事典がたくさんあり、インターネットが普及している時代なのだからもう少し取捨選択してほしい。参考資料室の横にあるおはなし会室は鍵を閉めておくということだが、もう少し有効なスペースがあるのではないかと思う。事務局から回答をもらい、一部改善しており、図書館も少しずつ良くなっているなど実感できた。入り口から入ったところも、本の見せ方も変わっており、なんとなく明るくなったかなと思う。これからもどんどん良くなっていてもらいたい。一部凡例表記が間違っている部分と、後、すぐに着手できない、すぐに着手できるというところも、すぐに着手できないというのであればいつまでかを決める。テーマを明確にして回答してほしい。

(4) その他

委員：西口再開発計画のことで今日話を聞けると思った。アンケートは後から配られるのか。協議会委員に配るものなのか。

事務局：事務局としてもそれほど情報を持っていない。広報で掲載された内容について、パブリックコメントを実施した。昨年11月に図書館と行政センターが一緒になったというところで方針が決まった。それに対し、図書館の機能をどうするかで現在アンケートを作成している。本日配布予定ではあったが、もう少し幅広く、違う人からの意見を採り入れたほうがいいのではないかと話が出ていた。そのため、現在調整しているところになる。

委員：アンケートよりも今後どういう駅前開発になるのか教えてほしい。

委員：まだ、全然わからない。パブリックコメントを出したが、ほぼ内容が決まっていなかった。平米数もそんなにない。図書館と行政施設がそこに入ることになるが、川口や浦和のような図書館を想像するととんでもない。本当に分館ぐらいのイメージでないと、すごく大きい期待をすると、すごく皆さんの期待を裏切るのではないかと思う。何せ狭いスペースしかない。

事務局：パブリックコメントの資料だが、概ね2,000から2,500平方メートルとなっている。図書館でいうと、延床面積を全部足したより、一回り大きいサイズになる。それぐらいしかスペースについてはわからない。いつ頃作られるのかということについても、把握している限り、7年、8年先だということを聞いている。それにあたって施設としてどんなものがあるか、政策企画室で、図書館と行政センターについてのいくつかの案を出して、パブリックコメントに掲載し、方針が決まったというような状況になっている。図書館としては、アンケートにどういったサービスを、駅前にある図書館で利用されているサービスであるとか、他館と比べて違うところもあり、どういったサービスを希望するか、時間帯、日時を含めている。それと個別に意見をもらうような形を採りたいといったところで、現在アンケートを調整している。図書館としては具体的に2,000から2,500平方メートルの中で、どれぐらいの図書館にスペースがあるかは全然わからない。そのため、アンケートとして聞けるとすると、例えば時間帯や、サービス内容といったところになる。今はバーコードで貸出や返却をしているが、他館ではICタ

グを導入し、自分で、貸出や返却ができるようになっている。それを想定して、どんなサービスを利用するのかというところを、アンケートとして作っている最終の調整をしている。これから時間がかかることはない。アンケートが完成したら、皆さんに配布し、書いてもらい、返信用封筒に送ってほしい。その後に、集約を行いたい。

委員：図書館としては本館を移動して、全部向こうに入ることではないのか。

事務局：現在ある本館を残すことについてはわからないが、西口に本館が移転する。

委員：パブリックコメントを募集した段階で、それを含めての意見と思い書いたが、行政側では今ある本館をなくして、本館を西口に移転させるという回答だった。それが食い違っていると感じた。

委員：市役所で協議会委員をしていたが、館長がわかっていないと困っているのがすごくよくわかる。市のやることというのは館長であってもわからないことだらけだと思う。どうやって図書館が移動するのかということよりも、もっと一般的なことを審議するべきで、あまり市の中で、どうするのかと言われると大変なのではないかと思う。

委員：アンケートは市民として回答するものなのか、協議会委員として回答するものなのか、アンケートは誰に配っているのか。

事務局：それを含めて現在調整している。利用者だけなのか、抽出して行うのか、そういったアンケートの取り方を現在調整している。

委員：頼高市長の会に行って、西口開発について伺ったが、意見というのはどうやって反映していくのか。市民のより広い参考意見を基に図書館を作っていないと、1人歩きをしてしまう。この場で、色々と意見を聞きたいと市長が話していた。図書館がどうなるかわからないという時に、こういう風にしたいと話し合うことができるのか、あるいは、そういったものはお任せになるのか。アンケートはどうしていくのか。

事務局：駅前の図書館ということのアンケートになる。今の図書館をどうするかについては、記入するとなると自由意見となる。趣旨としては、駅前図書館にどんなサービスを希望するかが主な内容となってくる。その対象も、今の利用者だけなのか、もう少し広げて市民意識調査のように抽出して意見をもらうのかというところで意見を調整している。

委員：時期もわからないのか。

事務局：そんなにかからない、本日出したいと思っていたが、もう少し検討が必要ではないかと意見が出たため出していない。

委員：抽出先については。

事務局：まずは協議会委員に全員にやってもらおう。その他については現在検討している。規模や人数の関係もあるため、調整している。しかし、ずいぶん先に行われるのかについては、ある程度固まってきており、来月中には協議会委員のところにはアンケートを送付すると思う。

委員：そのアンケートは、例えば、市民1,000人にアンケートをすれば、私たちの意見もその1,000人の中に含まれるのか。

事務局：協議会委員としての意見となる。

委員：今回の要望書の中で、HP のレイアウト変更について、バナーを移動させるということが難しいようだったが、ボランティア募集の表示も上の欄に小さくあったが、探せない。お知らせのところに NEW とかよくあるかと思うが、ああいった形でお知らせはできるのではないかと思う。バナーが目立たせるのが難しいようであれば、こういったことも検討してほしい。それと、協議会については、年 3 回の開催が難しいようであれば、1 回目が終了した後で、進捗状況を文書でよいから配布してほしい。そうしたら、2 回目の協議会の時に検討材料にすることができるかなと思う。

委員：図書館のボランティアを 20 年くらいしているが、やはり高齢化しており、若い人が入らない。ボランティアを募集してもなかなか入らない。図書館にも協力してもらい、ボランティア育成講座を充実して、ケセランパサランのように紙芝居を開催し、私たちよりももっと若い世代の人たちのグループを新たに立ち上げるようなことをしないと続かないような気がする。そういうことを重点的にやってもらえると嬉しい。

最後に事務局から説明

事務局：先ほども話をしたように次回の協議会については子ども読書活動推進計画があるため、5 月頃の開催を予定しており、パブリックコメントも行うため、そのあたりも示していきたいと考えている。詳しい日程については決まっていないが、決まり次第改めて調整していきたい。また、アンケートについては来月中には発送できると考えている。